

I ICT活用のポイント

○生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育むための学習ツールとしてICTを積極的・効果的に活用する。

○実際に見る、聴く、触れるなどの身体感覚を働かせて学習する活動とICTを活用する活動を学習のねらいに応じて教師が見極め、適切かつ効果的に活用する。

実際にもものに触れたり見たりすることが、図画工作・美術の資質・能力の育成においては非常に重要です。学習のねらいに応じて必要性を十分に検討し、適切な場面でICTを活用していきましょう。

2 実際の活用例

- ・何度でもやり直したり、形や色を変えたりしながら表現の可能性を広げていく。
- ・身近にある形や色などのよさや美しさ、自分たちの活動を記録する。
- ・撮影した写真を材料として表現に活用する。
- ・作品に関する情報を検索する。
- ・プログラミングソフトを使い、アニメーションを制作する。



- 資質・能力の育成と関連付ける。
- 感性や想像力を働かせる場面を大切にする。
- 発達の段階や経験に応じて適切に活用する。



3 実践事例の紹介

【小学校・2年・図画工作・「いろの 見えかた むげん大」】

育成を目指す資質・能力

B4（表現・制作）

C1（発表や話し合い）

造形的な面白さや楽しさについて感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げることができる。

ICT活用のポイント 【活用したソフトや機能】 カメラ機能

カメラ機能を活用することで、形が変化しやすい作品も画像として記録することができる。

学習の流れ

カラーセロハンと出会い、活動の見通しをもつ。

カラーセロハンを並べたり重ねたりしながら、様々な形や色を見つけて楽しむ。

撮影した画像を使いながら、グループ内で発見した形や色を伝え合う。

グループごとに発表し、互いの感じた形や色のよさを伝え合う。

事例の概要

本題材は、カラーセロハンを材料とし、並べたり重ねたりする中で生まれる形や色を楽しむ活動である。自らの働きかけによって生まれた形や色から新たな刺激を受けて、更にやりたいことを思い付き、何度も試しながら感じ方や見方を広げていくことをねらいとした。

指導に当たっては、場づくりとして、1つの大判の机に班ごとと座らせ、互いの活動を見合えるようにした。他者の視点や発見に影響を受けたり、それらを参考にしたりすることを通して、見方や感じ方を広げられるように工夫をした。

児童が全身で色との触れ合いを楽しみ、新たな発見に胸を躍らせ、それを進んで他者に伝えようとする姿が実現できるよう、きめ細やかな配慮と支援を心がけた。

【中学校・2年・美術・「なぜなぜアート探偵団」】

育成を目指す資質・能力

B4（表現・制作）

B5（家庭学習）

身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、見方や感じ方を深めることができる。

ICT活用のポイント 【活用したソフトや機能】 カメラ機能 学習支援ソフト

カメラ機能を活用することで、身近な対象の「美しさ」について、意見交換をすることができる。

学習の流れ

カメラ機能の使い方や画像の保存方法を知る。

試しに教室内で写真を撮影してみる。

【授業外】端末を持ち帰り、身近な「美しさ」を見つけて、撮影する。

写真を学習支援ソフトで共有し、感じた印象をコメント等で伝え合う。

事例の概要

事前に、生徒が休日に端末を持ち帰り、「身近なものや風景から見つけた美術」というテーマで写真を撮っておく。自分やクラスメートが撮影してきた写真を学習支援ソフトで共有して、それぞれの写真に含まれる造形的な要素や全体のイメージから感じた雰囲気について、コメントを付けて交流する活動を行った。

コメントには写真の感想を書くというだけでなく、〔共通事項〕（1）のアとイの視点から具体的に記述できるように指導を行った。また、写真の印象がどういった造形的な要素から感じられたのかを話し合う場面を設定し、美術科における「知識」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成できるようにした。

Webサイトには、上記の実践以外に、次の事例も掲載しています。

○小学校5年・・・カメラ機能や画像編集機能を活用した造形遊びの実践

○中学校1年・・・カメラ機能を活用した絵に表す活動の実践

